

(仮) おでかけシアタープログラム

事業概要

- 長距離の移動が困難な方でも参加できる地域の施設や、文化ホールを訪れることにハードルを感じている方でも集まりやすい場所に出向き、社会包摂型のアウトリーチを展開。
- 社会包摂型のアウトリーチでは、完成された作品や公演を鑑賞するのではなく、アーティストや参加者同士の関わりの中で、文化をツールとして、参加者のコミュニケーション、創造力等を育む参加型のプログラムを実施する。

対象者

- 障害者、高齢者、子育て世帯等
※文化施設を訪れることが困難であると思われる方

現状・背景

- 現在のアウトリーチは、小学校や地域のふれあいまつり等、対象や場所が限定的。
- 障害者、高齢者施設へは市民レベルで慰問的活動による文化事業が実施されている。
- 「文化芸術推進基本計画」では、文化ホールが社会包摂の機能等を有することから、教育、福祉、医療機関等と連携し、様々な社会的課題を解決する場としての役割を果たすことを求めている。
- 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」では、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを求めている。
- 市の文化施策として文化活動に参加する機会が十分ではない高齢者、障害者等に向けた事業が不足。
- 文化施設の機能を十分に発揮するため、積極的に地域へ出かけ、市民との交流を行うことを「草津市文化振興計画」に位置付けている。
- 関係者へのヒアリングにより、介護予防や社会参加促進の観点から、参加者が体験でき、お互いに交流できる文化活動にニーズがあることが判明。

目的

- 様々な背景を理由に、普段、文化ホールを訪れることが困難な障害者、高齢者、子育て世

代等を対象とし、その方々の住み慣れた場所、活動の場にアーティストが出向き、文化活動の機会を提供することで、誰もが文化に触れる機会の充実を図り、心の豊かさ及びふるさと意識の醸成をはかる。

- 福祉、医療機関との連携を深め、地域課題の解決に取り組み、劇場法や文化芸術推進基本計画が文化ホールに求める社会包摂の機能、活力ある社会を構築する役割を果たす。
- これまでになかった社会包摂の概念を取り組んだ事業を展開することで、文化ホールの機能向上につなげる。

文化振興計画の位置づけ

- 文化施設の活用および充実〔施策 2〕
- 高齢者、障害者等の文化活動の充実〔施策 6〕
- 文化によるまちづくりの推進〔施策 8〕
- 文化を通じた出会いおよび交流の創出〔施策 9〕

課題、検討事項

- どのような場所で実施するのが効果的か。協力可能な施設
 - ⇒障害者福祉センターやミナクサ☆ひろば等、参加者の数が見込める公共施設において、モデル的に実施し、効果を検証しながら徐々に民間施設にも広げる。通いなれた場所や、生活に身近な場所で開催することが有効。
- 実施するアウトリーチプログラムのジャンル（音楽、美術、ダンス、演劇等）
 - ⇒例えば、ダンスや太鼓など支援者も一緒に楽しめるもの。対象者によって興味のあるジャンルは異なるので、関係機関へのさらなる聞き取りが必要。
- 実施するプログラム（参加・体験型）の内容
 - ⇒身体を動かしたり、声を出して歌うものの他、回想法の活用も有効。プログラムをサポートする人材も必要
- 有効なPR方法
 - ⇒実施する施設における周知や、市からの通知や訪問の際に合わせて広報することが効果的。
- 市民レベルで実施されている慰問的な事業との住み分け
 - ⇒文化団体が実施するものは鑑賞型の事業で単発になりがち。今回は、アートをツールと

した社会包摂の事業として、参加者のコミュニケーションや創造力等を育み、孤立化の防止や介護予防等の課題解決につなげるのが目的

先進地事例

①アートトリップ（アーツアライブ：東京都）

- 開催時期：毎月第3水曜日 15：00～16：00
- 開催場所：国立西洋美術館
- プログラム：対話型アートプログラム

認知症の方とその家族が参加する「対話型アートプログラム」。グループでアートを見学し、進行役のアートコンダクターの質問に答えながら参加者が感じたこと、思ったことを自由に発言、共有する。創造性を刺激し、コミュニケーションを高めるプログラムにより、専門的な検証の結果、うつの軽減と単語記憶力の改善兆候や種々の行動変化が見られた。

特別養護老人ホーム、認知症カフェ等においても定期的に行われている。
(ニューヨークの近代美術館においても取り入れられている手法である。)

②若者自立支援演劇ワークショップ（公益社団法人 日本劇団協議会）

- 開催時期：10月～12月うち12回
- 開催場所：さいたま市自立支援ルーム他
- プログラム：演劇ワークショップ

高校中退者・不登校者やひきこもりなど社会的に孤立している青少年に演劇ワークショップを月2回行い、就労、就学を目指す取組。文化庁の委託を受けて実施。表現、コミュニケーション、体を使う、声を出す、仲間と作り上げる等、演劇には様々な要素が含まれており、表現力、コミュニケーション能力、自己肯定感の醸成につなげる。

③障害者支援サークルへのダンスアウトリーチ事業（静岡市民文化会館）

知的障害をもつ就労者が社会生活への適応能力を向上させるために実施。コミュニティダンスを通じて、自由に表現する楽しさに目覚めるとともに、表現活動を通じて他者とコミュニケーションをとることで、受講生同士で新たな関係性が築かれる機会となった。